

学力向上に効果のある取組事例

玖珠町立北山田小学校

⑰校内研修などによる授業改善

校内研修の方向性

(1) 研究主題

読む力をつける国語学習のあり方
～「説明文」「物語文」の学習を通して～

(2) 主題設定の理由

情報化社会と言われる今日、様々な情報に取り囲まれた中で真偽を見極め、判断し、自分の考えをもつことは必要不可欠な力である。その基本となる読む力＝読解力を本校では

- ・文章・作品に書かれている内容を正確かつ標準的な速さで読み取る能力(読み取る段階)
- ・読み取った内容から自分の既有的知識や経験と結び付けて意見、感想を形成する能力(読み深める段階)

と、とらえ、研究をすすめている。昨年度は教材を説明文にしぼり、「読み取る段階」を中心に研究をすすめてきた。音読を一時間の授業の中に必ず取り入れることや、ワークシートの工夫、板書の工夫などをおこなうことで、一定の成果をあげることができた。また、ペアやグループでの「学び合い」活動を仕組むことで、子どもたちが主体的に学習をすすめ、お互いの考えを交流する姿が見られた。



国語・算数の授業マニュアル

<国語の1時間授業のマニュアル>

漢字を1～2字(3分) <赤ねこ漢字スキル>を使って

・指書き→空書き→なぞりがき→写し書き

音読(3分) 一斉読み、個人など ⇒ 家庭学習につなげる・評価する

・本時のめあてに関わる文章の音読の場合とそうでない場合、音読の場所はちがってくる。家庭学習の音読ともリンクさせる。

中心展開 ⇒「言語活動の充実」と読解力で取り組む。学び合い、ペアトーク又は班トークをする。

※出来れば「課題」をリンクさせる。

「ふりかえり」⇒「めあて」に沿ったものを書く。(めあてはどうだったか。変容できたところ。)

<算数の1時間授業のマニュアル>

「めあて」は問題提示後、なるべく子どもの思考の流れの中で提示する。

「課題」も子どもの困りや疑問など思考の流れから、板書に位置づけて提示していく。

※展開の中で、学び合い、ペアトーク又は班トークをする。自分の考えの交流、深め合いなど

「まとめ」は課題の答えになるようにつくる。

「ふりかえり」はめあてに沿ったものに。(めあてはどうだったか。変容できたところ。)

※出来れば、ノートは見開き2ページで作らせる。

